

JTF548 KJ55.....76行

しようゆ醸造業を継ぐたえさせる。(松本猛・美術評論家)

「書評④」(写真1)

◎戦火に散った若き才能

久保克彦の青春

木村 享著

久保家は自由で知的な環境に恵まれていた。東京美術学校での状況や思考がよく分かるのは、姉きむら・とおる(1936年、山口県周南市生まれ)と残っているから。大阪大工学部卒業後、会社員を経てNPO法

日本は1941年に太が取られた。本書はその成作品は「凶案対象」1点だけであるが、没後75年たった今でも、その力は色あせない。昨年にはNHKの日曜美術館でも

「凶案対象」は、久保が自らの死を意識しながら、それまでに学んだすべてを注ぎ込んだ、戦時中とは思えない前衛的な大作となった。そこには時代の流れが表され、レオナルド・ダビンチやシュールレアリスム、構成主義の思想、さらに「黄金比」といった数学的思想などあらゆるものが見事に組み込まれている。本書は久保克彦という類まれな才能を持った青年の姿を通し、国家が主導する戦争というものが、どれほど多くの青年の可能性を奪ったかを考

者が急速に増加してゆくと評伝である。兵力不足が深刻化する。5画面からなる久保の年限を短縮し、学生を早く兵役に就かせるようにい上げとなる。誰もがその部(瀬戸内海に浮かぶ佐田)で生まれる。父は自由律俳句の種田山頭火と親しく、文才と画才に恵まれていたが、家業の

「凶案対象」は、久保が自らの死を意識しながら、それまでに学んだすべてを注ぎ込んだ、戦時中とは思えない前衛的な大作となった。そこには時代の流れが表され、レオナルド・ダビンチやシュールレアリスム、構成主義の思想、さらに「黄金比」といった数学的思想などあらゆるものが見事に組み込まれている。本書は久保克彦という類まれな才能を持った青年の姿を通し、国家が主導する戦争というものが、どれほど多くの青年の可能性を奪ったかを考



F190813JTF548(2100x2800) JTF549 KJ551-1 (P) ①「轆馬の歌 《凶案対象》と戦没画学生・久保克彦の青春」